

別記仕様書 I

粗飼料等収穫・収納業務

令和8年度の収穫場所は地図1に示す採草地(226.9ha)、兼用地(33.6ha)とし、具体的な収穫時日や収穫場所は収穫前に甲乙協議のうえ決定する。

粗飼料の収納量等は下記のとおりとする。なお、収納量は甲乙協議の上で変更される場合がある。

収納業務において、業務処理責任者は、業務担当員(肉牛G)と事前に乙の計画する作業時間帯等を打ち合わせ、具体的な作業内容を確認し実施すること。

原料草の水分管理は乙が実施し、仕様書に適合するかの確認を各グループの業務担当員が行う。

ただし、天候等の外的要因により仕様書に適合させるのが難しい場合は、甲乙協議の上、収納の有無を決定する。

また、収納量不足が生じる場合は、乙が代替ロール等を調達し収納すること。それに係る費用については、不足が生じた原因を勘案し、甲乙協議の上、負担割合を決定する。

1 牧草細切サイレージ【肉牛G】

(1) 収納時期

6月上旬から中旬

(2) 収納量

乾物量換算170トン(目標水分量75%前後)

(3) 収納方法

バンカーサイロのシート設置及び踏圧後の密閉、重し設置については肉牛Gが行う。

原料草の運搬及び詰め込み、踏圧については乙が行う。可能な限り、予乾を行う。運搬トラックは4台確保し、トラック1台当たり十分な踏圧時間を確保する(6~7分以上)。また、機械総重量が10トン以上のトラクターショベルを用いて踏圧することとする。

収納はS(南)バンカーサイロ→黒毛ドナー牛舎バンカー→N(北)バンカーサイロの順とする。

2 ロールバールラップ【肉牛G、家畜衛生G】

(1) 収納時期

6月中旬から7月上旬(一番草)

8月上旬から9月中旬(二番草)

(2) 収納量

ロール換算:肉牛949個(一番草で4割程度収納すること)

衛生180個(一番草で収納すること)

(3) 規格及び収納方法

直径1.6m。1個当たり700kg以下のラッピング(水分量45%以下)

ラップは3層巻の50%フィルム重複とする。

保管場所は、肉牛牛舎及び衛生エリア周辺で業務担当員(肉牛G)が別途指示する。

粗飼料等収穫・収納業務

3 敷料及び乾燥ロール【肉牛G、中小家畜G、家畜衛生G】

(1) 収納時期

6月中旬から7月下旬

(2) 収納量

敷料：ロール換算 230個（肉牛）

乾草：ロール換算 30個（衛生）

ロール換算 220個程度（めん羊）※要望量77t：350kg/個換算。325kg/個の場合235個

(3) 規格及び収納方法

敷料：直径1.6m。1個当たり300～400kgのロール。（水分量15%以下）

乾草（肉牛・衛生）：直径1.6m。1個当たり250～350kgのロール。（水分量15%以下）

乾草（めん羊）：直径1.5m以下。1個当たり250～350kgのロール。（水分量15%以下）

乾草については、牧草割合の高い草地から収穫すること。

収納場所・方法は、肉牛グループ乾草舎及びめん羊乾草庫で各業務担当員が別途指示する。

4 飼養試験に用いる粗飼料について【肉牛G】

肉牛の飼養試験のため、圃場及び刈取時期を限定した粗飼料が必要となる場合があるので、乙の事業実施計画に支障をきたさないよう、事前に業務担当員（肉牛G）と業務処理責任者で協議を行う。

別記仕様書Ⅱ

草地維持・管理業務**1 放牧地等掃除刈り【肉牛G、中小家畜G】**

(1) 作業時期

6月から8月とする。

肉牛放牧地に係る具体的な時期・区域は、業務担当員（肉牛G）が別途指示する。

めん羊放牧地に係る具体的な時期等は、業務担当員（めん羊）が別途指示する。

(2) 作業内容

ディスクモアで均一の高さに刈り取ること（刈取高 10cm）

めん羊放牧地に関しては、刈り取り後速やかにテッターで掃除草を分散させること。

(3) 作業場所

肉牛放牧地 133.7ha、めん羊 45.8ha（22.9ha×2回）とする。

場所は、地図1示した場所とする。

(4) その他

兼用地の採草利用は、時期等について業務担当員（肉牛G）と打合せを行うこと。

また、業務担当員（肉牛G）の指示があった場合は、兼用地の縁刈り等を行うこと。

2 放牧地肥料散布

■肉牛放牧地

(1) 作業場所・時期

作業場所は、肉牛放牧地のうち概ね 45.1ha 程度とし、具体的な時期・区域は業務担当員（肉牛G）が別途指示する。

(2) 作業内容

化学肥料をブロードキャスターで均一に散布する。

散布量は、25kg/10a 前後とし、肥料は甲が支給する。

3 堆肥散布 【飼料生産技術G】

予定散布量は年間 3,000 トンとし、畜産試験場集中堆肥舎および総合堆肥舎から搬出し散布する。散布場所は集中堆肥舎から最大で片道 5km の圃場とし、事前に甲乙協議する。散布面積は、早春、越冬前でそれぞれ最大 60ha とする。

上記について、圃場条件や家畜頭数の変動、機械の稼働状況などによりやむを得ず変更する場合は、その取り扱いを別途甲乙協議する。

4 採草地維持管理 【飼料生産技術G】

(1) 採草地の施肥について

早春に、化学肥料を平均 60kg/10a 前後、甲が事前に指定した圃場に散布する。この時期の散布面積は最大で 130ha とする。肥料は甲が支給する。1 番草後に、化学肥料を平均 40kg/10a 前後、甲が事前に指定した圃場に散布する。この時期の散布面積は、最大で 100ha とする。

(2) 雑草の防除について

経年草地の一部では、最終番草収穫後、9月または10月中旬までに、ギシギシ類を防除する薬剤を散布する。面積は最大で概ね 15ha とし、実施場所は事前に甲乙で打ち合わせる。薬剤は甲が支給する。

(3) 草地の更新について

別記仕様書Ⅱ

草地維持・管理業務

草地の更新は概ね10ha程度とし、原則として簡易更新(表層攪拌法または作溝法)によって行うものとする。更新場所については、事前に業務担当員(飼料生産技術G)と業務処理責任者とで協議を行う。更新にかかる除草剤、土壌改良資材、化学肥料、牧草種子は、甲が支給する。

ただし、草地の更新により乙の事業計画に支障を来す場合には、甲乙協議の上、実施する。

上記(1)から(3)について、圃場や気象条件、家畜頭数の変動、機械の稼働状況などによりやむを得ず変更する場合は、その取り扱いを別途甲乙協議する。

5 畜産試験場におけるほ場試験について 【飼料生産技術G】

採草地の一部を用いて試験を行う場合があるので、事前に業務担当員(飼料生産技術G)と業務処理責任者とで協議を行う。ただし、試験の実施により乙の事業実施計画に支障を来す場合には、甲乙協議の上、実施する。

地図 1R 8ほ場利用計画

